

『全体構想行動計画2019-2023』 取組方針(案)

■石西礁湖自然再生全体構想の目標

長期目標：人と自然の健全な関わりを実現し、1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。

短期目標：サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する。

『石西礁湖自然再生全体構想』における長期目標の実現を目指し、『行動計画2019-2023』における取組方針については、次の基本的考え方(方向性)をもとに作成する。

- 「大規模な攪乱」(大規模な白化、オニヒトデなど)が今後も続くことを前提としながら、サンゴ礁生態系の健全性を維持し回復を促進するため、各分野の取組を継続する。
- 長期的な視野に立ち、サンゴ礁の回復状況を監視するためのモニタリングを継続的に実施し、得られたデータを個別の取組の促進や検証に有効活用し、総合的な取組を促進させる。
- 陸域からの環境負荷を低減させるための具体的対策を実施するとともに、対策効果の評価方法及び体制を構築することに重点化を図る。
- 協議会構成員の連携、協力関係を引き出し、協議会全体としてより効果的な取組が可能となるよう、相互の情報共有や意見交換を積極的に行う。
- サンゴ礁の現状や保全の重要性について、広く理解を求め取組に協力してもらえよう、様々な機会を通じて普及啓発を進める。
- サンゴ礁の保全に関する活動や取組の広がりを通じて、八重山の持続可能な豊かな地域社会づくりにつなげる。

『全体構想行動計画2019-2023』 取組方針(案)

<考え方>

- ・基本的考え方(方向性)を踏まえた「全体構想行動計画2019-2023」の取組方針(案)は次のとおり。
- ・1～3の大項目は概ね部会の内容に対応させている。
「知る」…学術調査部会、「守る」…陸域・海域対策部会
「伝える」…普及啓発・適正利用部会

『全体構想』の長期目標(2037年)の達成に向けて、私たちは2023年までの5年間、次の3つの分野、15の方針に基づき、取組を実施します

キャッチフレーズ

“一人ひとりの意識と行動から、石西礁湖のサンゴ礁を守ろう！”(仮)

1. サンゴ礁の今を調べる =「知る」

- ①サンゴ礁の実態や変化を知る
- ②サンゴ礁への陸からの影響を知る
- ③サンゴ礁を守る活動の効果を知る
- ④ひとつひとつの活動をつなぐ
- ⑤サンゴ礁を皆で見守る

2. 豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す =「守る」

- ①サンゴ礁の海を汚さない
- ②サンゴが生息できる環境を取り戻す
- ③サンゴ礁への負荷を減らす観光を進める
- ④サンゴ礁の回復を助ける
- ⑤一人ひとりが行動し皆で守る体制をつくる

3. サンゴ礁の恵みや大切さを伝える =「伝える」

- ①サンゴ礁の恵みを伝える
- ②「サンゴ礁の現状や守る取組」を皆に伝える
- ③未来につなぐため八重山に住む子どもたちに伝える
- ④サンゴを守るための活動の場をつくる
- ⑤サンゴを守る活動を地域づくりへと広げる

1. サンゴ礁の今を調べる =「知る」

- ①サンゴ礁の実態や変化を知る
- ②サンゴ礁への陸からの影響を知る
- ③サンゴ礁を守る活動の効果を知る
- ④ひとつひとつの活動をつなぐ
- ⑤サンゴ礁を皆で見守る

<考え方>

- ①サンゴ礁の実態や変化を知る
 - ・継続的なモニタリングにより、サンゴ礁やサンゴ群体の“実態”を把握するとともに、変化を把握するモニタリングを行う
 - ・長期的な評価指標を加えるなどモニタリング項目を再検討する
- ②サンゴ礁への陸からの影響を知る
 - ・栄養塩類や赤土がサンゴに与える影響、それらとサンゴ礁の現状との関係性など、陸域からの影響の“実態”をつかむ
- ③サンゴ礁を守る活動の効果を知る
 - ・攪乱要因の除去や環境負荷の軽減等、具体的取組の実施や実施効果の評価につながるようなモニタリングを行う
- ④ひとつひとつの活動をつなぐ
 - ・モニタリング結果を有効活用し、陸域及び海域を通じた総合的な取組対策を促進させる
- ⑤サンゴ礁を皆で見守る
 - ・モニタリングの結果を市民に分かりやすく伝えたり、市民でも参加できるモニタリングを実施したりすることで、サンゴ礁を協議会委員だけでなく多くの市民全体で見守る

2. 豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す =「守る」

- ①サンゴ礁の海を汚さない
- ②サンゴが生息できる環境を取り戻す
- ③サンゴ礁への負荷を減らす観光を進める
- ④サンゴ礁の回復を助ける
- ⑤一人ひとりが行動し皆で守る体制をつくる

<考え方>

- ①サンゴ礁の海を汚さない
 - ・生活排水対策、赤土流出防止対策だけでなく、観光施設や畜産業による排水、農薬や化学肥料など陸域からの負荷の実態やその影響を洗い出し、対策を実施する
- ②サンゴが生育できる環境を取り戻す
 - ・サンゴ自身の成長により生態系が回復していけるような環境・基盤をつくっていく
- ③サンゴ礁への負荷を減らす観光を進める
 - ・大幅に増加している観光客による負荷(フィンキックや踏み付け、日焼け止めなど)の実態を把握し、サンゴ礁への負荷を減らす観光を進める
- ④サンゴ礁の回復を助ける
 - ・2016年の大規模白化による深刻な影響を受けている状況から、積極的な修復事業などによりサンゴ礁の回復を手助けする
- ⑤一人ひとりが行動し皆で守る体制をつくる
 - ・白化等の大規模な攪乱が今後も起こることを前提として、関係者が連携して保全する体制を構築する
 - ・各主体のそれぞれの取組がサンゴ礁保全につながる役割分担の重要性を認識し、一人ひとりが積極的に取組を進める

3. サンゴ礁の恵みや大切さを伝える =「伝える」

- ①サンゴ礁の恵みを伝える
- ②「サンゴ礁の現状や守る取組」を皆に伝える
- ③未来につなぐため八重山に住む子どもたちに伝える
- ④サンゴを守るための活動の場をつくる
- ⑤サンゴを守る活動を地域づくりへと広げる

<考え方>

- ①サンゴ礁の恵みを伝える
 - ・サンゴ礁は多様な生きものが生活する場であり、私たちに多くの恵みを与えてくれる地域の宝であること、サンゴ礁を守るため一人ひとりにできることがあることを伝える
- ②「サンゴ礁の現状や守る取組」を皆に伝える
 - ・市民や観光客などに、様々なイベントや媒体をとおしてサンゴ礁の現状やサンゴ礁を守る取組などを伝える
- ③未来につなぐため八重山に住む子どもたちに伝える
 - ・八重山の全ての子どもたちがサンゴ学習を受けたり、サンゴ礁を自分の目で見る体験の機会をつくることで、サンゴ礁のことをもっと好きになってもらう
- ④サンゴを守るための活動の場をつくる
 - ・サンゴを守るための環境教育や体験活動などを行うための拠点づくりを検討する
 - ・多くの市民や観光客に対して、サンゴを守る活動の機会を提供する
- ⑤サンゴを守る活動を地域づくりへと広げる
 - ・サンゴ礁の保全に関する活動や取組の広がりを通じて、八重山の持続可能な豊かな地域社会づくりにつなげる